

未来へつなぐ子育て・教育充実事業（R2）

～地域で共に学び、共に生きる教育の推進～

現状

- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の在籍状況 小・中学校の通常の学級(6.0%)、高等学校(2.4%)
(平成30年度福島県調査)
- 小・中学校の通常の学級に在籍している特別な支援が必要な児童生徒 約6.5%(平成24年文科省調査)
- 小・中学校の特別支援学級に在籍児童生徒数、通級による指導を受けている児童生徒数の増加 10年間で2倍以上(本県)
- 特別支援学級から高等学校へ進学する生徒数の増加 5年間で2倍(本県)

課題

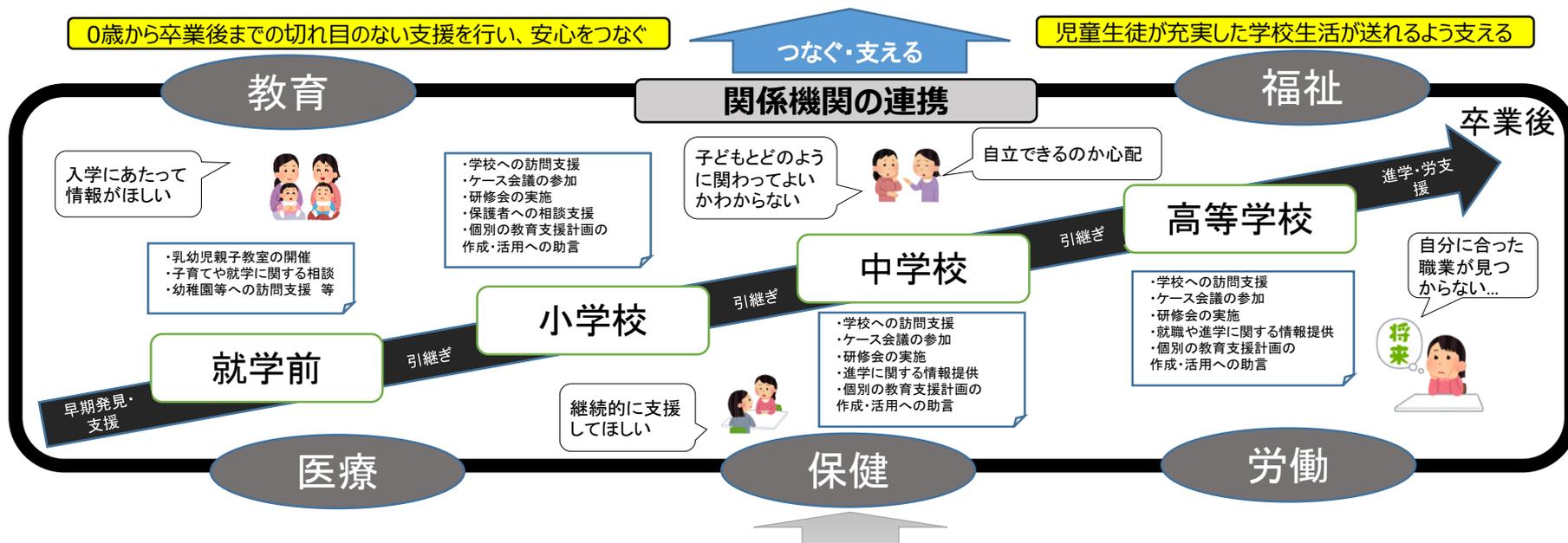
- ◆ 就学前から卒業後までの切れ目のない支援体制の整備
- ◆ 就学に関するガイダンス等保護者の相談を受ける体制の充実
- ◆ 発達や養育に関する相談の迅速な対応

障がいのあるなしにかかわらず、安心して学べる、子育てできる「ふくしま」を目指す

0歳から卒業後までの切れ目のない支援を行い、安心をつなぐ

つなぐ・支える

児童生徒が充実した学校生活が送れるよう支える



《切れ目のない支援体制整備事業》

地域支援チーム

特別支援学校

- 【地域支援センター】～発達・就学・学びの相談窓口～
- 【教育支援アドバイザー】～保護者と学校等をサポート～
- 【センター的機能】～学校等への相談・研修支援～



各教育事務所

地域支援コーディネーターとして、域内における事業展開の中心的役割

特別支援教育センター

特別支援教育の専門性を生かした研修支援等

《合理的配慮調査研究事業》

- ・合理的配慮の提供に関する具体的な取組の実践研究
- ・特別支援教育コーディネートハンドブックの周知・活用